



市川工業高等学校

機械科・電気科・建築科・インテリア科

モノづくりの技を活かした活動
～モノづくりで夢を実現する/モノづくりで夢をあたえる～

夢をモノづくりで実現できる学校

市川工業高校は、県内で唯一の専門学科である、インテリア科と建築科を有しており、専門性の高い授業を行っています。高校生の段階で感性を育むことにより、卒業後社会において、かけがえのない人材を育成することを目的としています。

モノづくりの知識を生かした社会貢献活動 地域丸ごと耐震診断



●市川工業、日本大学、地元町会と連携して地域丸ごと耐震診断を行いました。Googleストリートビューを使用し、木造住宅の外観から耐震性を簡易的に判断し、倒壊等の危険のある場所を示したハザードマップの作成に取り組んでいます。地震に強いまちづくりに寄与します。

モノづくりの技術を生かした社会貢献活動 フィリピン・セブ島における竹骨組2階建仮設住宅と防災教育



●フィリピン・セブ島の低所得者層が居住する地域では、地理的要因による地震、台風及び火災により住居を失った家族が多く存在する。災害によって住居を失った、フィリピン・セブ島の被災した家族に提供する仮設住宅を開発する。

モノづくりの技術を競い合う ものづくりコンテスト



①木材加工 ②溶接

●日ごろ培ってきたモノづくりの技術で競い合います。

①②ものづくりコンテスト木材加工部門、溶接部門に参加し、千葉県大会で技術を競います。

モノづくりを活かした交流



③のこぎり体験 ④家具の寄贈

●子どもたちにモノづくりの楽しさを伝えたいという思いから、「モノづくり交流」を行っています。

③保育園児と一緒にのこぎり体験。

④家具を制作し、保育園に寄贈。

モノづくりでデザインする



⑤拓殖大学オレンジカップ ⑥高校生ものデザインコンテスト

●学んできたモノづくりの知識で、デザインコンペに挑戦します。

⑤拓殖大学オレンジカップにて優秀賞を受賞！

⑥高校生ものデザインコンテストで優良賞を受賞！

モノづくりで夢をかなえる



⑦夢マルシェ ⑧ファッション甲子園

●学んだモノづくりの技術をキャリアにします。

⑦夢マルシェ 企業の方々と共同で製品のデザイン・製造・販売を行いました。

⑧ファッション甲子園はこれまで7回出場しています。

地域に貢献し、地域に愛される学校を目指して

千葉県立市川工業高等学校

本校は、JR総武線 本八幡駅と市川駅の線路沿いに位置しています。外環自動車道が開通し、交通の利便性が良く、県内外さらには外国からも学校見学に来ています。

本校には、工業を専門とする学科が4学科あり、機械科、電気科そして、千葉県内唯一の建築科、インテリア科があります。約730人の生徒は、明るく素直で、元気に勉学に励み、部活動も盛んです。

部活動では、工業高校ならではの部活動があり、全国工業高等学校長協会主催の「高校生ものづくりコンテスト」に毎年出場しています。

高校生の段階で感性を育むことにより、卒業生は社会に旅立ち、地域、社会に貢献できる、かけがえのない人材を育成することを目指しています。なお、各方面との連携を行うなど、多彩な行事も行っています。

本校は、今回「魅力ある県立学校づくり大賞」への応募として、夢をモノづくりで実現するため、モノづくりの技を活かした活動をするために取り組みました。

具体的には、建築科3学年生徒が、日本大学や地元町会と連携して、地域丸ごと耐震診断を実施し、木造建築の外観から耐震性を簡易的に判断し、倒壊等の危険のある建物をピックアップし、地域のハザードマップの作成に取り組んでいます。地域の方などは建て替えやリノベーションを行う際、参考にさせていただいております。

そして、子どもたちなどにモノづくりの楽しさを伝えたいということから「モノづくり交流」にも取り組みました。インテリア科生徒が保育園や小学校へ行き、「のこぎり体験」を行い、この取組に参加した園児や児童からは、「木を切るの、はじめて」「大工さんになりたい」「のこぎりで木を切るのはおもしろい」など、感動の声が多く上がっています。

なお、指導した生徒は、日頃培った技術を園児や児童へ教えることで、モノづくりへの楽しさを改めて知り、この取組に参加した生徒からは、「モノをつくる方法を伝える難しさ」のほか「モノづくりを伝えることの楽しさ」「自分が持っている技術の再確認ができる」など、生徒と園児児童が「お互いに良い交流ができた」という声を聴きました。

他にも、生徒自身の技術や技能が世の中でどのくらいあるか図るために、様々な外部団体主催の「デザインコンペ」へ出品し、優秀な成績を収め表彰されました。この取組では、日本経済新聞のコラムに掲載されました。

さらには、グローバルな視野を育むためにフィリピン・セブ島へ渡航し、現地の生徒とモノづくりの技術を生かし「国際技術交流」を実施しました。交流期間中、現地地域の火災予防活動や「火災に強いまちづくり」の提唱をして社会貢献活動をしました。帰国後、国際交流の内容をまとめて、大学など外部団体主催の研究発表会に参加しました。保護者や地域の方々には「自信がつき、頼もしくなった」「頼りがいがある学校」などの反応やケーブルテレビでも放映されるなど反響がありました。これは当初想定していなかった成果でもありました。

今後は、地元自治体の要請で「平田コククジラ」の記念碑づくりなどを行い、地域に根ざした学校づくりを積極的に取り組み、発展させていきます。御期待ください。

皆様の御来校をお待ちしています。